

中小企業における資金調達について

2013年以降の「アベノミクス」では、幾つかの金融・財政政策や成長戦略が実施されてきたが、まだ日本経済が十分に回復してきたとは言い難い。特に、日本経済の中核を担う中小企業(中小企業の定義は中小企業基本法第2条に則る)がどのように経営を改善し、競争力を回復するかが重要な課題として残されている。

日本の中小企業の現状を見ると、産業構造の転換の遅れや低い生産性、後継者不足による倒産業の増加など、多くの課題が山積している。また、新しい産業部門でのベンチャー企業もまだ十分に育成されておらず、今後の日本経済の持続的な成長のためには新規産業の創出や既存の中小企業の改革が求められている。

特に、中小企業が発展していくためには、その成長を支えるための資金の調達は重要な課題であり、景気循環の動向に左右されない安定的な資金供給の仕組みが必要となっている。しかし、中小企業に対して資金供給を行う金融機関等は、これまで資金需要のある中小企業に対して十分な資金を供与してこなかったといつてよい。その原因として、金融機関側の「目利きの力」＝リスク査定能力の問題や、中小企業に対する従来の資金供給ルートの不足、信用保証制度や公的金融の仕組みの課題等が指摘されてきた。

本テーマでは、こういった中小企業の現状を踏まえて、今後の中小企業金融のあり方について議論をしていきたい。特に、日本経済の活性化を実現するために、これからどのような中小企業を育成し、その資金調達の仕組みをどのように整備していくべきかを考えていきたい。例えば、これから成長していくと期待される新しい産業部門(ロボット産業、人工知能、再生医療、バイオテクノロジー等)の中小企業を育成するためには、何が必要であり、そのためにどのような資金調達の方法が考えられるのかを検討してもらいたい。そこでは、従来の金融機関(都市銀行・地方銀行・信用金庫等)のあり方や、日本政策金融公庫等の公的金融の仕組みの再検討、証券市場を通じた資金仲介ルートの整備、クラウド・ファンディング等の新しい金融仲介の可能性が問われてくるだろう。

そのため参加団体には中小企業の成長を支える資金調達の仕組みを考察し、中小企業の各成長段階における資金調達のあり方について活発な議論を期待したい。

主な論点	留意点
<ul style="list-style-type: none">・ 中小企業金融の現状と今後の課題・ 中小企業の成長にとって最適な資金調達方法・ 中小企業に対する従来の金融機関の資金供給の問題点とその解決策・ 新規産業の育成と今後の中小企業の成長支援政策について	<ul style="list-style-type: none">・ 中小企業の金融環境の変化・ 諸外国の中小企業金融の仕組みとの比較・ 中小企業の各成長段階における資金調達方法の違い・ 金融機関の「目利きの力」＝リスク査定能力の向上策・ 公的金融の課題と今後のあり方